

平成30年度業務実績評価結果に対する業務等への反映状況

公立大学法人福井県立大学

分野	評価委員会の提言	業務への反映状況等
教育	<ul style="list-style-type: none"> 本県の産業等の振興を担う人材の育成は県立大学の重要な役割であることから、特に、新たに開設する創造農学科等における取組みに期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 創造農学科の入学選抜試験において、本学初となる総合型選抜や推薦入試および一般選抜において面接を取り入れた選抜試験を実施し、入学定員 25 人を上回る 27 人が入学した。 公設試験場の研究員や経営農家・企業の実務者が教員となり、実務教育を担う「特任講師」制度を新設し、創造農学科での実践指導に当たった。 水産増養殖を中心に学ぶ新学科の設置に向け、教職員で組織するプロジェクトチームを設置し、新学科の構成やカリキュラムの素案を作成したほか、施設整備の検討を開始するとともに整備にかかる予算確保等を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 恐竜などの古生物学を中心に、全国大学との差別化・個性化を図り、県立大学の存在感を高めていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 古生物関連学部の新設に関する有識者会議を開催し、学部名称や教育研究分野、就職先、教員確保、収容定員等について、委員から意見聴取し各項目における論点を整理するとともに、育成する人材像について検討した。
	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学年齢である 18 才人口の減少を見据え、県内の大学、高専などの高等教育機関が国公立の枠を越えて単位互換、地域連携などに取り組むとともに、それぞれの魅力を高めることも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 本学を含む県内 8 つの高等教育機関と県が参画する「FAA ふくいアカデミックアライアンス」が設立され、県内入学確保、学生の県内定着、PBL の促進等に向け具体的な取組みを行うこととした。
研究等	<ul style="list-style-type: none"> 他大学や行政、企業等と連携した教育研究等を進め、その成果を地域に還元するなど、一層、地域に貢献することを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学内競争的研究資金である「地域連携研究推進支援」に、学部等が部局を挙げて取り組む地域連携研究活動を支援する「中期計画推進枠」を新設し、環境保全を目指した養殖技術の開発等、3 件の研究事業を採択した。 地域経済研究所教員が中心になって、ふくいエネルギーマネジメント協会、福井県中小企業団体中央会、福井銀行と産学連携による「ふくい環境配慮型社会研究会」を発足した。 福井の文学や歴史、産業等について独自に研究している県民や学芸員を講師に迎え、特別企画講座を開講した。
地域貢献 国際交流等	<ul style="list-style-type: none"> 地域の公立大学として、県内出身学生の確保に努めており評価できる。 	<p>—</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 学生の確保について、大学入試制度改革にあわせ、AO入試や一般選抜入試における面接試験の導入を決定するなど、本人の意欲や人物を評価する制度へ改善したことは評価できる。高い目的意識と優れた資質を持つ学生の受入れのため、引き続き入試制度を整備することに期待する。 外国人留学生の受入れについて、留学生宿舎の確保や学生チューターの配置による生活支援、進学説明会の開催など留学生の確保に向けた努力は評価するが、受入れ人数の増加に向け、さらなる努力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和 3 年度入学選抜において、海洋生物資源学部における総合型選抜の実施、および、看護学科一般選抜における面接試験の実施に向け準備を進めた。 日本学生支援機構による東京・大阪での進学説明会で個別相談会を実施したほか、北陸 3 県や在学私費留学生の母校の日本語学校に外国語版資料の送付等、PR 活動を行った。 既存の 17 校に加え、新たに浙江工商大学（中国）、チチェスターカレッジ（イギリス）、トロント大学（カナダ）と学術交流協定を締結し、既存協定校を含め学生 8 人を派遣するとともに、新たな交換留学生を 23 人受け入れた。 外国人留学生の学生生活支援のため、日本語教室や最高レベル（N1）取得を目標とした日本語能力試験対策講座を開講した。